

学校支援地域本部事業をめぐる現状と課題(2)

～地域住民の意識調査から～

Local Schools Support Groups (2)

～an attitude survey of local residents～

岩崎 功
Isao IWASAKI

松永 由弥子
Yumiko MATSUNAGA

(平成22年10月6日受理)

要旨

本研究は、国が進める学校支援地域本部事業の現状と課題を明らかにする研究の一環として、地域住民の意識調査からそれらを明確にしようとするものである。

すでに本研究に関しては、平成21年度に静岡県T中学校において教員を対象に学校支援地域本部事業に関する意識調査を行い、本事業に関わる学校側の状況や支援のニーズを明らかにした。それに対し、本部組織の中核となる地域住民は、地域による学校支援に関してどのような意識を持っているのか、教員調査を実施した静岡県T中学校の校区である静岡県F市T地区の住民に対してアンケート調査を行い、その意識を明らかにすることとした。

調査の結果、地域住民が学校の様子をどの程度見聞きしているか、地域の行事にどの程度参加しているかが、学校支援への意識と関わりが深く、教育や地域への関心が高い方が、学校支援も活発化すると予測できた。また、学校の様子を見ていたり、学校へ出入りすることへの抵抗感が低かったりする場合の方が、学習支援活動や部活動の指導など学校の教育活動に直接関わる支援に積極的に取り組む傾向にあること、性別や年代別で、学校支援への関心はかなり違いがあることが明らかとなった。したがって、学校支援活動に取り組むにあたっては、まずは、地域住民に学校の現状を広く知らせ、学校のあり方などを共に考えそのイメージを共有すること、地域住民の方に学校支援をお願いする場合には、すべての地域住民に同じような学校支援を求めるのではなく、それぞれの方の関心や立場、状況をよく把握し、だれに何を支援してもらうかを明確に区別して、支援を働きかけることが重要だと考えられる。調査では、多くの住民が小中学校の教育に、集団活動での心がまえやマナーの習得、道徳心や規範意識の向上などの徳育的な面をかなり期待していることも明らかとなり、今後、学校の役割そのものを検討する必要があると思われる。

本研究は静岡産業大学研究助成金交付規程に基づき平成22年度に助成を受けたものである。

1. はじめに

本研究は、国が進める学校支援地域本部事業の実施上の中心となる中学校とその周辺地

域の現状と課題を明らかにする研究の一環として、地域住民の意識調査からそれらを明確にしようとするものである。

すでに本研究に関しては、平成21年度に静岡県T中学校において教員を対象に学校支援地域本部事業に関する意識調査を行い、本事業に関わる学校側の状況や支援のニーズを明らかにした。これは、本事業の実施において学校のニーズに応じた支援が重要とされ、まずはそのニーズの大半を占めると予想される教員の要望把握が必要と考えたからである。この中学校教員に対する調査では、教員は、総合的な学習の時間の講師や読み聞かせ活動等教諭と同等の立場での学習支援、校内の環境整備や登下校時の安全指導への支援を望む傾向にあること、地域住民が学校の現状をよく理解した上で学校支援の仕組みを構築するのが望ましいと考えていることが明らかとなった¹⁾。

このような学校の状況に対し、本部組織の中核となる地域住民は、地域による学校支援に関してどのような意識を持っているであろうか。ここでは、今後の研究の中で、教員調査とあわせて、ある一つの地域で学校支援地域本部事業を進める際の課題を検討することを考慮し、静岡県T中学校の校区である静岡県F市T地区の住民に対して学校支援に関するアンケート調査を行い、その意識を明らかにすることとした。

2. 調査の目的と方法

(1) 調査の目的と仮説

「1. はじめに」に示したような問題意識から、調査は、静岡県F市T地区での学校支援の最適な取り組み方を検討する際の基礎資料として、地域住民の教育・地域・学校支援に対する意識を明らかにすることを目的に行った。

具体的には、①教育や地域への関心の度合いが学校支援としての取り組みに影響を与えているのではないかと、②学校への期待や学校のイメージ、学校の現状把握の違いによって、学校支援への意識に違いがあるのではないかと、③住民自身の属性や学習の有無によって、取り組みたい学校支援に違いがあるのではないかと、という3つの調査仮説を立て、調査の設計、調査票の作成、集計計画等の調査の具体的作業に取り組んだ。

(2) 調査方法及び回収結果

調査は、平成22年6月5日～7月13日の期間に、20歳以上でT地区に居住している人1,000人を対象に、調査票に回答を記入していただく質問紙法によって実施した。調査票は、F市T地区自治会のご協力をいただいて無作為に配布し、郵送にて回収した。

上記の通り調査を実施した結果、回収数及び有効回収数は597人（59.7%）であった（表1）。この数は、母集団であるF市T地区の20歳以上の人口18,983人（表2、平成22年3月31日現在）に対して、95%の信頼度で精度（誤差）を5%としたときに、妥当な標本数である391を上回った²⁾。ただし、回答者を性別及び年代別にみると、実際のF市T地区のそれと比べて、20歳代の回答者が少なく、60歳代の男性の回答者が多い傾向にある。なお、調査票及び単純集計結果は巻末に資料として示すとおりである。

表1 調査の性別・年齢別人数 (上段：人 下段：%)

	調査数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
全体	597 100	13 2.2	80 13.4	107 17.9	112 18.8	202 33.8	80 13.4	3 0.5
男性	316 100	7 2.2	16 5.1	36 11.4	48 15.2	143 45.3	66 20.9	— —
女性	277 100	5 1.8	64 23.1	71 25.6	64 23.1	59 21.3	14 5.1	— —

表2 F市T地区の人口 (上段：人 下段：%)

	全体	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
全体	18983 100	2488 13.1	3689 19.4	3027 16	3018 15.9	3513 18.5	3248 17.1
男性	9294 100	1251 13.5	1837 19.7	1571 16.9	1429 15.4	1737 18.7	1469 15.8
女性	9689 100	1237 12.8	1852 19.1	1456 15	1589 16.4	1776 18.3	1779 18.4

3. 調査結果および考察

(1) 単純集計結果からみる2つの特徴

今回の調査では、子どもや教育に関わる質問項目の単純集計結果において、以下の点が特徴としてあげられる。

①住民の小中学校での教育への期待

問10において、小中学校での教育に期待することを尋ねたところ、全体では、1位の「集団活動での心がまえやマナーの習得」が82.1%、2位の「道徳心や規範意識の向上」が73.4%で他の項目に比べかなり高い割合を示した(表3)。3位の「学力の向上」は46.6%で、やや開きが見られた。

表3 小中学校での教育へ期待すること(複数回答) (上段：人 下段：%)

	調査数	学力の向上	健康の維持や体力の向上	えやマナーの習得	集団活動での心がまえ	道徳心や規範意識の向上	その他	ない	特に期待することは	無回答
全体	597 100	278 46.6	200 33.5	490 82.1	438 73.4	19 3.2	1 0.2	2 0.3		

年代別にみた場合にも（表4）、どの年代においても、1位が「集団活動での心がまえやマナーの習得」、2位が「道徳心や規範意識の向上」をあげられた。第3位の「学力の向上」を期待する回答した人を年代別にみると、40代が70.1%で1位、2位の30代は58.8%となっていた。また、これを子どもの状況別（表5）にみると、「小学生をもつ親」が70.3%、「中学生をもつ親」が80.8%であったが、「高校生をもつ親」の場合は58.6%と、小学生または中学生をもつ親に比べて比率が低かった。「健康の維持や体力の向上」を期待すると回答した人については、20代、30代がそれぞれ53.8%、45.0%であり、次いで40代の33.6%となっている。

表4 年代別にみた小中学校での教育へ期待すること（上段：人 下段：%）

	調査数	学力の向上	健康の維持や体力の向上	集団活動での心がまえやマナーの習得	道徳心や規範意識の向上	その他	特に期待することは	無回答
全体	597 100	278 46.6	200 33.5	490 82.1	438 73.4	19 3.2	1 0.2	2 0.3
20歳代	13 100	5 38.5	7 53.8	11 84.6	10 76.9	—	—	—
30歳代	80 100	47 58.8	36 45	70 87.5	62 77.5	—	—	—
40歳代	107 100	75 70.1	36 33.6	91 85	79 73.8	4 3.7	1 0.9	—
50歳代	112 100	47 42	30 26.8	94 83.9	79 70.5	3 2.7	—	—
60歳代	202 100	69 34.2	60 29.7	159 78.7	148 73.3	8 4	—	—
70歳以上	80 100	35 43.8	30 37.5	63 78.8	58 72.5	4 5	—	1 1.3

表5 子どもの状況別にみた小中学校での教育へ期待すること（上段：人 下段：％）

	調査数	学力の向上	向上 健康の維持や体力の	えやマナーの習得 集団活動での心がま	向上 道徳心や規範意識の	その他	ない 特に期待することは	無回答
全 体	597 100	278 46.6	200 33.5	490 82.1	438 73.4	19 3.2	1 0.2	2 0.3
小学校入学前	57 100	31 54.4	26 45.6	47 82.5	41 71.9	1 1.8	—	—
小学生	101 100	71 70.3	48 47.5	90 89.1	77 76.2	2 2	—	—
中学生	55 100	44 80	19 34.5	48 87.3	41 74.5	1 1.8	—	—
高校生	58 100	34 58.6	22 37.9	50 86.2	37 63.8	—	—	—
大学・短大・専門学校・予備校生	43 100	24 55.8	11 25.6	33 76.7	33 76.7	—	—	—
社会人	344 100	136 39.5	106 30.8	275 79.9	248 72.1	16 4.7	1 0.3	1 0.3
その他	6 100	2 33.3	4 66.7	5 83.3	5 83.3	—	—	—
子どもはいない	59 100	21 35.6	21 35.6	47 79.7	45 76.3	1 1.7	—	—

小中学校の教育に、「集団活動での心がまえやマナーの習得」や「道徳心や規範意識の向上」を強く期待する傾向は、多くの人が、子どもにはまず社会人として自立していけるように育てたい、そしてその役割を学校に期待している表れととらえられるであろう。「集団活動での心がまえやマナーの習得」の期待が「道徳心や規範意識の向上」を10%程度上回っているのは、長期的には倫理的な意味での人間的成長を願っているが、とりわけ目の前の問題として現在通っている学校の中で、いじめなどに会わずに周りの人たちと上手くやって欲しいと考えているためとも予測できる。あるいは、少子化が進む中で家庭や地域での生活の中では集団行動を身につける機会が少ないため、集団生活を送る学校での習得を期待している面もあると考えられる。

一方で、「学力の向上」をあげた人が46.6%ということは、半数以上の人が小・中学校に対して「学力の向上」以外のことを期待していることを示しているともとらえられる。複数回答も可能であるから、人間的な成長を期待する「集団活動での心がまえやマナーの習得」や「道徳心や規範意識の向上」と同程度の比率で「学力向上」への要望もあるものと予想していたが、「学力の向上」をあげた人の割合が50%に満たないとは、学校側にとっては衝撃的なことである。

教育基本法に示されている教育の目的である人格の完成には、「知」「徳」「体」のバランスとれた発達が不可欠である。本問では、選択肢の1が「知」、2が「体」、3と4が「徳」を表している。2の健康面に関しては、家庭における対応の比重が大きいから学校への期待がやや低いのも理解はできる。また、「徳」でも3が現実的な行動規範の面を、

4がやや理想的な面を表しているが、いずれにしても、学校には、いじめや不登校など生徒指導上の問題について、よりしっかりした対応を期待しているようにもみえる。そして「知」すなわち学力の向上については、学校以外の例えば塾などでの成果を期待しているのであろうか。学力向上は個人的な努力で可能であるから、学校以外の塾などに期待していて、集団生活におけるいわゆるしつけについては、少子化の進んだ核家族では難しいから学校に期待するということなのであろうか。

前にも挙げたが、子どもの状況別にみた場合、中学生を持つ親の場合には、期待することの順番をみると、「学力の向上」は「集団活動での心がまえやマナーの習得」について2位であった。子どもが中学生の時期は学校での知的教育を期待するのであろうか、それとも、子どもの高校進学を目の前にした親の気持ちが表れであるのか。

この設問への以上のような回答傾向は、教育の目的に対する学校の役割やそのあり方の再検討の必要性を示し、また地域住民の学校への関わり方を検討する際に特に考慮すべき点の1つといえるだろう。

②子どもや孫の成長への期待

問2では、子どもや孫の成長を楽しみにしているか尋ねたところ、9割以上の人々が「楽しみだ」と回答している(表6)。これは、性、年齢等にあまり関わらない回答傾向であった。

表6 子どもや孫の成長が楽しみ (上段：人 下段：%)

	調査数	楽しみだ	どちらともいえない	楽しみではない	子どもや孫はいない	無回答
全体	597	519	24	2	49	3
	100	86.9	4	0.3	8.2	0.5

(2) 小中学校への支援の可能性

地域住民の小中学校への支援の可能性については、問14において9つの選択肢を設定してどのような支援が可能か尋ねたところ(表7)、図書の整理、グラウンドの整備、芝生の手入れ、花壇や樹木の整備等の「校内の環境整備」が42.0%、安全指導等「登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保」が41.4%と、この2項目が4割を占めた。ついで、あいさつ運動等の生活指導をはじめとする「生徒指導」が20.3%であった。一方、授業時間中に補助的に入る、ドリルの採点を行うなどの授業の補助、実験や実習の補助等を示す「学習支援活動①」は10.1%、総合的な学習の時間の講師、読書での読み聞かせ活動等、補助というよりもやや教諭と同等の立場で学習支援にあたる活動を示す「学習支援活動②」は9.9%にとどまった。

表7 小中学校への支援可能なこと（複数回答）（上段：人 下段：％）

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2

これらの回答から、何らかの形で小中学校の支援は可能であると考えている人は82.1%にのぼることが明らかとなり、支援できることはないとする15.7%を大きく上回った（表8）。今回の調査回答者が、学校支援に高い意欲を示しているのとらえられる結果である。では、学校支援への意識は、教育や地域等への関心とどのように関連しているのかを詳しくみることにしたい。

表8 小中学校への支援の可能性（上段：人 下段：％）

	調査数	支援できることがある	支援できないことはない	無回答
全体	597 100	490 82.1	94 15.7	13 2.2

①教育への関心度と学校支援への意識

調査では、住民の教育への関心度を把握するために、近所の子どもとの関係や、教育や学校の話題への関心度などを問う質問を設定した。

その結果、問1で近所の子どもとの関係を尋ねると、「あいさつ程度はする」が37.0%で最も多く、ついで「ときどき話をする」が22.6%であり、半数以上の人近所の子どもと言葉を交わしているという結果になった（表9）。特に、中学生以下の子どもがいる場合には、近所の子どもと挨拶をしたり話をしたりする割合が高い（表10）。子どもがいない場合には、近所の子どもがわからない割合が3割を超え、子どもがいる場合に比べ高い割合となった。

表9 近所の子どもとの関係（上段：人 下段：％）

	調査数	よく話をする	するときどき話をする	あいさつ程度はする	近所の子どもだとわかる	その他	近所の子どもはわからない	近所に子どもはいない	無回答
全体	597 100	45 7.5	135 22.6	221 37	72 12.1	6 1	91 15.2	24 4	3 0.5

表10 子どもの状況別からみた近所の子どもの関係 (上段：人 下段：%)

	調査数	よく話を する	ときどき話を する	あいさつ程度 はする	近所の子ども だとわかる	その他	近所の子ども はわからない	近所に子ども はいない	無回答
全 体	597 100	45 7.5	135 22.6	221 37	72 12.1	6 1	91 15.2	24 4	3 0.5
小学校入学前	57 100	6 10.5	23 40.4	20 35.1	4 7	— —	3 5.3	1 1.8	— —
小学生	101 100	16 15.8	40 39.6	32 31.7	9 8.9	3 3	1 1	— —	— —
中学生	55 100	9 16.4	18 32.7	19 34.5	6 10.9	— —	3 5.5	— —	— —
高校生	58 100	6 10.3	12 20.7	17 29.3	11 19	2 3.4	9 15.5	1 1.7	— —
大学・短大・専門学校・予備校生	43 100	1 2.3	9 20.9	15 34.9	5 11.6	— —	11 25.6	1 2.3	1 2.3
社会人	344 100	18 5.2	64 18.6	138 40.1	43 12.5	4 1.2	55 16	19 5.5	3 0.9
その他	6 100	— —	2 33.3	3 50	— —	— —	1 16.7	— —	— —
子どもはいない	59 100	3 5.1	10 16.9	19 32.2	4 6.8	— —	19 32.2	4 6.8	— —

次に、問11で教育や学校の話への関心度を尋ねると、全体では、「よく持っている」が48.1%、「少しは持っている」が50.3%で、合わせて98.4%もの人が関心を持っているという結果であった(表11)。それらは、性別(表12)、年代別(表13)、子どもの状況別(表14)にみても、関心を少なからず持っている人の割合は96%を超えていた。問1の近所の子どもの関係別にみると(表15)、子どもとよく話をしたり、ときどき話をしたりする場合には関心を「よく持っている」割合が高い傾向にあった。

表11 教育や学校の話への関心度 (上段：人 下段：%)

	調査数	よく持っている	少しは持っている	関心はない	無回答
全 体	597 100	287 48.1	300 50.3	7 1.2	3 0.5

表13 年代別にみた教育や学校の話への関心度(上段：人 下段：%)

	調査数	よく持っている	少しは持っている	関心はない	無回答
全 体	597 100	287 48.1	300 50.3	7 1.2	3 0.5
20歳代	13 100	5 38.5	8 61.5	— —	— —
30歳代	80 100	47 58.8	32 40	1 1.3	— —
40歳代	107 100	49 45.8	56 52.3	2 1.9	— —
50歳代	112 100	43 38.4	66 58.9	2 1.8	1 0.9
60歳代	202 100	89 44.1	111 55	2 1	— —
70歳以上	80 100	53 66.3	26 32.5	— —	1 1.3

表12 性別からみた教育や学校の話への関心度(上段：人 下段：%)

	調査数	よく持っている	少しは持っている	関心はない	無回答
全 体	597 100	287 48.1	300 50.3	7 1.2	3 0.5
男 性	316 100	132 41.8	176 55.7	7 2.2	1 0.3
女 性	277 100	154 55.6	122 44	— —	1 0.4

表14 子どもの状況別にみた教育や学校の話題への関心度（上段：人 下段：％）

	調査数	いる よく持 って	少し は持 って	関心 はない	無 回答
全 体	597 100	287 48.1	300 50.3	7 1.2	3 0.5
小学校入学前	57 100	30 52.6	27 47.4	— —	— —
小学生	101 100	66 65.3	34 33.7	1 1	— —
中学生	55 100	34 61.8	20 36.4	1 1.8	— —
高校生	58 100	33 56.9	25 43.1	— —	— —
大学・短大・専門学校・予備校生	43 100	12 27.9	31 72.1	— —	— —
社会人	344 100	160 46.5	179 52	3 0.9	2 0.6
その他	6 100	3 50	3 50	— —	— —
子どもはいない	59 100	17 28.8	40 67.8	2 3.4	— —

表15 子どもとの関係からみた教育や学校の話題への関心度（上段：人 下段：％）

	調査数	いる よく持 って	少し は持 って	関心 はない	無 回答
全 体	597 100	287 48.1	300 50.3	7 1.2	3 0.5
よく話を する	45 100	32 71.1	12 26.7	1 2.2	— —
ときどき話を する	135 100	82 60.7	52 38.5	1 0.7	— —
あいさつ程度は する	221 100	93 42.1	126 57	1 0.5	1 0.5
近所の子どもだと わかる	72 100	31 43.1	40 55.6	1 1.4	— —
その他	6 100	3 50	3 50	— —	— —
近所の子どもは わからない	91 100	30 33	57 62.6	3 3.3	1 1.1
近所に子どもは いない	24 100	16 66.7	8 33.3	— —	— —

問12では、最近（過去1年くらい）のT地区の小中学校についてその様子を見聞きしたことの有無を尋ねると、全体では、「見たことがある」が30.0%、「聞いたことはある」が40.7%となっていて、合わせて7割近くの人が小中学校の様子を見聞きしていた（表16）。「見ても聞いてもない」の回答では、性別にみると（表17）、男性が33.2%、女性が23.5%と約10%男性が多かった。問1の近所の子どもとの関係別にみると（表18）よく話を
する場合には、関心を「よく持っている」割合が62.2%と全体の傾向の2倍以上であった。

また、問11の教育や学校の話題への関心度別にみると（表19）、関心をよく持っている
と回答した人の、43.9%が「見たことがある」一方で、関心を少しは持っている人では
わずか17.0%の人が「見たことがある」と答えるにとどまっている。

表16 T地区小中学校の様子の見聞きの有無（上段：人 下段：%）

	調査数	ある 見たこと がある	聞いたこと はある	聞いて いない	見ても 聞いて いない	無 回答
全 体	597 100	179 30	243 40.7	171 28.6	4 0.7	

表17 性別からみたT地区小中学校の様子の見聞きの有無（上段：人 下段：%）

	調査数	ある 見たこと がある	聞いたこと はある	聞いて いない	見ても 聞いて いない	無 回答
全 体	597 100	179 30	243 40.7	171 28.6	4 0.7	
男 性	316 100	65 20.6	145 45.9	105 33.2	1 0.3	
女 性	277 100	113 40.8	97 35	65 23.5	2 0.7	

表18 近所の子どもの関係からみたT地区小中学校の様子の見聞きの有無（上段：人 下段：%）

	調査数	ある 見たこと がある	聞いたこと はある	聞いて いない	見ても 聞いて いない	無 回答
全 体	597 100	179 30	243 40.7	171 28.6	4 0.7	
よく話をする	45 100	28 62.2	16 35.6	1 2.2	— —	
ときどき話をする	135 100	63 46.7	60 44.4	11 8.1	1 0.7	
あいさつ程度はする	221 100	53 24	101 45.7	66 29.9	1 0.5	
近所の子どもだとわかる	72 100	22 30.6	25 34.7	25 34.7	— —	
その他	6 100	2 33.3	3 50	1 16.7	— —	
近所の子どもはわからない	91 100	6 6.6	28 30.8	56 61.5	1 1.1	
近所に子どもはいない	24 100	5 20.8	9 37.5	10 41.7	— —	

表19 教育や学校の話題への関心度からみた
T地区小中学校の様子の見聞きの有無

(上段：人 下段：%)

	調査数	ある 見たこと がある	聞いたこと がある	見ても聞い てもいない	無回答
全 体	597 100	179 30	243 40.7	171 28.6	4 0.7
よく持っている	287 100	126 43.9	111 38.7	50 17.4	— —
少しは持っている	300 100	51 17	129 43	118 39.3	2 0.7
関心はない	7 100	2 28.6	2 28.6	3 42.9	— —

さらに、問13では、小中学校への出入りについて抵抗の有無を尋ねると、全体では「抵抗を感じない」が46.6%であり、約半数の人が小中学校へ出入りすることに抵抗を感じないと回答している（表20）。子どもの状況別にみると（表21）、「子どもはいない」人の場合には22.2%の人が「抵抗を感じる」が、その他の場合にはいずれも「抵抗を感じる」は10%台以下であった。特に、「中学生」の親の場合、「抵抗を感じる」人の割合は1.8%と最も低く、「抵抗を感じない」は69.1%となっていて最も高い。問1の近所の子どもの関係別にみると（表22）、よく話をする場合には、「抵抗を感じない」割合が高かった。問12の小中学校の様子の見聞きの有無別にみると（表23）、「抵抗を感じない」と回答したのは、小中学校の様子を「見たことがある」人の場合には60.9%、「聞いたことがある」人の場合には46.1%であるが、「見ても聞いてもいない」人の場合には33.3%にとどまった。

表20 小中学校への出入りの抵抗感（上段：人 下段：%）

	調査数	抵抗を感じ ない	どちらとも いえない	抵抗を感じ ない	無回答
全 体	597 100	93 15.6	221 37	278 46.6	5 0.8

表21 子どもの状況別からみた小中学校への出入りの抵抗感（上段：人 下段：％）

	調査数	抵抗を感じる	どちらでもない	抵抗を感じない	無回答
全 体	597 100	93 15.6	221 37	278 46.6	5 0.8
小学校入学前	57 100	9 15.8	18 31.6	30 52.6	— —
小学生	101 100	11 10.9	32 31.7	58 57.4	— —
中学生	55 100	1 1.8	15 27.3	38 69.1	1 1.8
高校生	58 100	3 5.2	25 43.1	29 50	1 1.7
大学・短大・専門学校・予備校生	43 100	8 18.6	19 44.2	16 37.2	— —
社会人	344 100	54 15.7	128 37.2	159 46.2	3 0.9
その他	6 100	1 16.7	3 50	2 33.3	— —
子どもはいない	59 100	13 22	24 40.7	22 37.3	— —

表22 近所の子どもの関係からみた小中学校への出入りの抵抗感（上段：人 下段：％）

	調査数	抵抗を感じる	どちらでもない	抵抗を感じない	無回答
全 体	597 100	93 15.6	221 37	278 46.6	5 0.8
よく話をする	45 100	7 15.6	7 15.6	31 68.9	— —
ときどき話をする	135 100	11 8.1	52 38.5	72 53.3	— —
あいさつ程度はする	221 100	35 15.8	86 38.9	99 44.8	1 0.5
近所の子どもだとわかる	72 100	8 11.1	36 50	28 38.9	— —
その他	6 100	— —	4 66.7	2 33.3	— —
近所の子どもはわからない	91 100	26 28.6	28 30.8	35 38.5	2 2.2
近所に子どもはいない	24 100	5 20.8	7 29.2	11 45.8	1 4.2

表23 教育や学校の話題への関心度からみた
T地区小中学校の様子の見聞きの有無

(上段：人 下段：%)

	調査数	抵抗を感じ ない	どちらとも いえません	抵抗を感じ ない	抵抗を感じ る	無回答
全 体	597 100	93 15.6	221 37	278 46.6	5 0.8	
見たことがある	179 100	19 10.6	50 27.9	109 60.9	1 0.6	
聞いたことはある	243 100	38 15.6	93 38.3	112 46.1	— —	
見ても聞いてもない	171 100	36 21.1	76 44.4	57 33.3	2 1.2	

また、(1)の①で取り上げた問10の小中学校での教育へ期待することについて、問12の小中学校の様子の見聞きの有無別にみたところ（表24）、様子を見たことがある人の中の62.6%が「学力の向上」を期待しているのに対し、聞いたことがある人の中で「学力の向上」を期待する割合は、40.7%にとどまった。

以上のような、教育への関心の持ち方をする中で、小中学校への支援は何が可能と考えているか、また実際に行われている学校支援ボランティアの状況をどの程度把握しているのかを考察してみると、次のような傾向が明らかとなった。問14の小中学校への支援可能なことについては、問11の教育や学校の問題への関心度別にみると（表25）、関心をよく持っている人の14.0%が「学習支援活動①」を、また16.7%が「学習支援活動②」を支援可能として挙げているが、関心を少しは持っている人の場合には「学習支援活動①」は5.7%、「学習支援活動②」は4.0%にとどまっている。同じく、関心をよく持っている人の15.7%が「学校行事の運営支援」が可能であるのに対し、少しは持っている人では9.3%である。「生徒指導」の支援に関しても、関心をよく持っている人の場合には28.6%であったが、関心を少しは持っている人の場合には12.7%であった。

表24 T地区小中学校の様子の見聞きの有無からみた小中学校での教育に期待すること

(上段：人 下段：%)

	調査数	学力の向上	健康の維持や体力の向上	えやマナーの習得	集団活動での心がまえ	向上	道徳心や規範意識の向上	その他	ない	特に期待することは	無回答
全 体	597 100	278 46.6	200 33.5	490 82.1	438 73.4	19 3.2	1 0.2	2 0.3			
見たことがある	179 100	112 62.6	67 37.4	154 86	138 77.1	5 2.8	— —	— —			
聞いたことはある	243 100	99 40.7	87 35.8	200 82.3	176 72.4	9 3.7	— —	— —			
見ても聞いてもない	171 100	65 38	45 26.3	135 78.9	122 71.3	5 2.9	1 0.6	— —			

表25 教育や学校の話題への関心度からみた小中学校へ支援可能なこと(上段：人 下段：%)

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全 体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
よく持っている	287 100	42 14.6	48 16.7	125 43.6	28 9.8	123 42.9	45 15.7	82 28.6	3 1	30 10.5	4 1.4
少しは持っている	300 100	17 5.7	12 4	124 41.3	23 7.7	119 39.7	28 9.3	38 12.7	4 1.3	61 20.3	7 2.3
関心はない	7 100	— —	— —	1 14.3	1 14.3	2 28.6	— —	1 14.3	1 14.3	3 42.9	— —

問15のボランティア活動の状況把握についても問11の教育や学校の問題への関心度別にみると(表26)、関心をよく持っている人の4割以上が「読み聞かせボランティア」のことを知っていた。他のボランティア活動についても、関心をよく持っている人のほうが関心を少しはもっている人より知っている割合が高い傾向にあった。

表26 教育や学校の話題への関心度からみたボランティア活動の認知状況(上段：人 下段：%)

	調査数	読み聞かせボランティア	図書ボランティア	下校時の見守りボランティア	協働体験活動への協力	福祉体験活動への協力	業での講師	小学校生生活科の授業での講師	高齢者とのふれあい活動への協力	活動の場の提供	中学校の職場体験	その他	知らない	知っているものは	無回答
全 体	597 100	212 35.5	141 23.6	481 80.6	107 17.9	44 7.4	152 25.5	237 39.7	5 0.8	67 11.2	8 1.3				
よく持っている	287 100	133 46.3	91 31.7	242 84.3	66 23	29 10.1	93 32.4	131 45.6	3 1	24 8.4	2 0.7				
少しは持っている	300 100	77 25.7	50 16.7	233 77.7	41 13.7	15 5	58 19.3	104 34.7	1 0.3	41 13.7	4 1.3				
関心はない	7 100	2 28.6	— —	5 71.4	— —	— —	— —	1 14.3	1 14.3	2 28.6	— —				

次に、問12の小中学校の様子の見聞きの有無別に、問14の小中学校への支援可能なことをみると(表27)、全体では15.7%の人が「支援できることはない」と回答しているが、様子を見たことがあると回答した人の中で「支援できることはない」と答えた人は7.8%であり、様子を見たことがある人の中で「支援できることはない」と答えた人は9.9%となっている。一方で様子を見ても聞いてもない人の中では、「支援できることはない」と答える割合が32.7%にのぼっている。また、支援可能な内容として「学力支援活動①」「学力支援活動②」「学校行事の運営支援活動」をあげる割合は、様子を見たことがある場合にはそれぞれ14.0%、19.0%、19.6%であり、一方様子を見たことがある場合には、

学校支援地域本部事業をめぐる現状と課題(2)

それぞれ9.5%、7.4%、10.7%であった。これは、様子を見たことがあることと学校への支援の意欲の関連の強さを表している。すなわち、様子を見たことがあると回答した人の場合、「小中学校への支援可能なこと」に関して積極的な回答の割合が高い。

表27 T地区小中学校の様子の見聞きの有無からみた小中学校へ支援可能なこと（上段：人 下段：%）

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全 体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
見たことがある	179 100	25 14	34 19	83 46.4	15 8.4	75 41.9	35 19.6	48 26.8	1 0.6	14 7.8	4 2.2
聞いたことはある	243 100	23 9.5	18 7.4	113 46.5	25 10.3	115 47.3	26 10.7	54 22.2	5 2.1	24 9.9	4 1.6
見ても聞いてもない	171 100	11 6.4	8 4.7	54 31.6	12 7	54 31.6	12 7	19 11.1	1 0.6	56 32.7	3 1.8

問13の小中学校への出入りの抵抗感別に問14の小中学校への支援可能なことをみた場合には（表28）、抵抗を感じない人の27.3%が「生徒指導」が可能と回答しているのに対し、抵抗を感じると答えた人で「生徒指導」が可能と答えた人は8.6%と大きな差があった。「部活動の指導」の支援が可能ということについても、抵抗を感じる人の中では6.6%の人しか可能と回答していないが、抵抗を感じない人の11.9%が「部活動の指導」の支援が可能と回答している。しかし、「校内の環境整備」については、抵抗を感じる人40.9%が支援可能であり、抵抗を感じない人でも46.4%が支援可能と答えており、抵抗感による差はあまり見られない。同様に、「登下校時の安全確保」についても、抵抗を感じない人の41.0%、抵抗を感じる人の32.3%が支援可能と答えている。抵抗を感じるか抵抗を感じないかで、支援の意欲に差の生じる内容もあるが、「校内の環境整備」「登下校時の安全確保」等では、抵抗を感じる人でも抵抗を感じない人とほぼ同じ割合で支援の意欲を示しているのである。これらのことから、地域からの学校支援を推進するためには、学校側としては「学校への出入り」に関して地域住民の抵抗感を少なくするよう努力することが求められる。

表28 学校への出入りの抵抗感から見た小中学校へ支援可能なこと (上段：人 下段：%)

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全 体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
抵抗を感じる	93 100	8 8.6	10 10.8	38 40.9	6 6.5	30 32.3	9 9.7	8 8.6	1 1.1	23 24.7	2 2.2
どちらともいえない	221 100	17 7.7	15 6.8	84 38	13 5.9	100 45.2	12 5.4	37 16.7	2 0.9	42 19	5 2.3
抵抗を感じない	278 100	34 12.2	34 12.2	129 46.4	33 11.9	114 41	52 18.7	76 27.3	4 1.4	29 10.4	4 1.4

これらのことから、地域住民の学校への支援を期待する場合、地域住民が学校の様子を「見聞きしたことがある」ということが重要な要素となっていると考えられる。学校側からの情報開示も、学校を「見てもらう」ことに重点を置いたPRが必要であろう。言い換えれば、学校側からの地域への情報発信や連携の在り方が、学校への理解や地域による支援のキーポイントととらえられる。学校行事の取り組みが表彰された場合や部活動での活躍、児童・生徒の個人的な優れた活動など、学校のプラス面の情報を地域に情報提供するだけでなく、学校における事故や不祥事などに学校にとって都合の悪い情報も可能な限りオープンにして、地域住民の学校への理解を深めてもらう努力をしていくことが大切である。

②地域への関心度と学校支援への意識

この調査では、住民の教育への関心度と同時に地域への関心度も把握し、それと学校支援への意識の関わりについての検討を試みた。地域への関心度は、近所の大人との関係、地域の役の引き受けの有無、地域行事への参加頻度からみることにした。

その結果、問7において近所の大人との関係を尋ねたところ、「ときどき話をする」が42.5%で4割を超えていた(表29)。年代別にみると(表30)、60歳代と70歳以上で「よく話をする」割合が他の年代より高く4割以上となっている。その一方で「あいさつ程度はする」割合は年代が上がるにつれ低くなっている。

問8では地域の役の引き受けの有無を尋ねたところ、「引き受けている」が60.0%、「引き受けたことがある」が23.6%で、合わせて8割以上が現在も含めこれまでに引き受けたことがあるとの回答であった(表31)。性別にみると(表32)、男性では「引き受けている」が70.6%と女性の48.0%よりもかなり高くなっている。年代別にみると(表33)、20・30歳代では「引き受けたことがない」が34.4%と他の年代より高くなっている。また、年代が上がるにつれてこれまでに引き受けたことがある割合が高くなっている。これらの結果は、地域の役の決め方の特徴などが反映されたものでもあろう。

表29 近所の大人との関係

(上段：人 下段：%)

	調査数	よく話を する	ときどき話を する	地域の行事で会っ た時には話を する	あ い さ つ 程 度 は す る	近 所 の 人 だ と わ か る	そ の 他	近 所 の 人 は わ か ら ない	近 所 に 人 は い な い	無 回 答
全 体	597 100	172 28.8	254 42.5	40 6.7	111 18.6	14 2.3	— —	3 0.5	— —	3 0.5

表30 性別からみた近所の大人との関係

(上段：人 下段：%)

	調査数	よく話を する	ときどき話を する	地域の行事で会っ た時には話を する	あ い さ つ 程 度 は す る	近 所 の 人 だ と わ か る	そ の 他	近 所 の 人 は わ か ら ない	近 所 に 人 は い な い	無 回 答
全 体	597 100	172 28.8	254 42.5	40 6.7	111 18.6	14 2.3	— —	3 0.5	— —	3 0.5
男 性	316 100	107 33.9	118 37.3	21 6.6	58 18.4	8 2.5	— —	1 0.3	— —	3 0.9
女 性	277 100	65 23.5	133 48	19 6.9	52 18.8	6 2.2	— —	2 0.7	— —	— —

表31 地域の役引き受けの有無

(上段：人 下段：%)

	調査数	い る	引 き 受 け て い る こ と が あ る	引 き 受 け た こ と は な い	引 き 受 け た こ と は な い	無 回 答
全 体	597 100	358 60	141 23.6	89 14.9	9 1.5	

表32 性別からみた地域の役引き受けの有無(上段：人 下段：%)

	調査数	い る	引 き 受 け て い る こ と が あ る	引 き 受 け た こ と は な い	引 き 受 け た こ と は な い	無 回 答
全 体	597 100	358 60	141 23.6	89 14.9	9 1.5	
男 性	316 100	223 70.6	55 17.4	33 10.4	5 1.6	
女 性	277 100	133 48	85 30.7	56 20.2	3 1.1	

表33 年代別からみた地域の役引き受けの有無(上段：人 下段：%)

	調査数	い る	引 き 受 け て い る こ と が あ る	引 き 受 け た こ と は な い	引 き 受 け た こ と は な い	無 回 答
全 体	597 100	358 60	141 23.6	89 14.9	9 1.5	
20歳代	13 100	8 61.5	2 15.4	3 23.1	— —	
30歳代	80 100	42 52.5	8 10	29 36.3	1 1.3	
40歳代	107 100	58 54.2	29 27.1	20 18.7	— —	
50歳代	112 100	58 51.8	39 34.8	13 11.6	2 1.8	
60歳代	202 100	134 66.3	45 22.3	19 9.4	4 2	
70歳以上	80 100	57 71.3	17 21.3	5 6.3	1 1.3	

問9では、地域行事への参加頻度を尋ねた(表34)。「ときどき参加している」が51.4%と半数を占め、次いで「よく参加している」が38.7%で、合わせると9割が地域行事に参加している状況である。性別でみると(表35)、女性より男性が参加する割合が高く、年代別にみると(表36)、60歳代と70歳以上の参加している割合ほぼ95%で、他の年代に比べて高くなっている。居住年数別にみると(表37)、居住年数が高いほど、参加している割合が高くなっている。また、問7の近所の大人との関係別にみると(表38)、近所の大人とよく話をする場合には地域行事に「よく参加している」割合が66.9%にのぼり、問8の地域の役を引き受けの有無別にみると(表39)、役を引き受けている場合には「よく参加している」割合が49.7%で全体より10%ほど高かった。

表34 地域行事への参加頻度

(上段：人 下段：%)

	調査数	いる	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	無回答
全体	597	231	307	57	2	
	100	38.7	51.4	9.5	0.3	

表36 年代別からみた地域行事への参加頻度

(上段：人 下段：%)

	調査数	いる	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	無回答
全体	597	231	307	57	2	
	100	38.7	51.4	9.5	0.3	
20歳代	13	3	6	4	—	
	100	23.1	46.2	30.8	—	
30歳代	80	18	51	11	—	
	100	22.5	63.8	13.8	—	
40歳代	107	32	62	13	—	
	100	29.9	57.9	12.1	—	
50歳代	112	30	67	15	—	
	100	26.8	59.8	13.4	—	
60歳代	202	103	88	11	—	
	100	51	43.6	5.4	—	
70歳以上	80	44	32	3	1	
	100	55	40	3.8	1.3	

表35 性別からみた地域行事への参加頻度

(上段：人 下段：%)

	調査数	いる	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	無回答
全体	597	231	307	57	2	
	100	38.7	51.4	9.5	0.3	
男性	316	143	151	21	1	
	100	45.3	47.8	6.6	0.3	
女性	277	86	155	36	—	
	100	31	56	13	—	

表37 居住年数からみた地域行事への参加頻度

(上段：人 下段：%)

	調査数	いる	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	無回答
5年未満	58	13	31	14	—	
	100	22.4	53.4	24.1	—	
5年以上10年未満	46	11	28	7	—	
	100	23.9	60.9	15.2	—	
10年以上20年未満	116	42	63	11	—	
	100	36.2	54.3	9.5	—	
20年以上	373	163	184	25	1	
	100	43.7	49.3	6.7	0.3	

表38 近所の大人の関係からみた地域行事への参加頻度(上段：人 下段：%)

	調査数	いる	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	無回答
全 体	597 100	231 38.7	307 51.4	57 9.5	2 0.3	
よく話をする	172 100	115 66.9	54 31.4	3 1.7	—	—
ときどき話をする	254 100	75 29.5	156 61.4	22 8.7	1 0.4	
地域の行事で会った時には話をする	40 100	20 50	18 45	2 5	—	—
あいさつ程度はする	111 100	18 16.2	69 62.2	24 21.6	—	—
近所の人だとわかる	14 100	2 14.3	10 71.4	2 14.3	—	—
その他	—	—	—	—	—	—
近所の人はいらない	3 100	—	—	3 100	—	—
近所に人はいない	—	—	—	—	—	—

表39 近所の大人の関係からみた地域行事への参加頻度(上段：人 下段：%)

	調査数	いる	よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	無回答
全 体	597 100	231 38.7	307 51.4	57 9.5	2 0.3	
引き受けている	358 100	178 49.7	158 44.1	21 5.9	1 0.3	
引き受けたことがある	141 100	40 28.4	93 66	8 5.7	—	—
引き受けたことはない	89 100	10 11.2	52 58.4	27 30.3	—	—

これらの結果から、住民の地域への関心は高い傾向にあるとみてよいと考えられるが、そのことと、学校支援への関心はどのような関係にあるだろうか。問7の近所の大人との関係別に問14の小中学校への支援可能なことをみた場合には(表40)、近所の大人とよく話をする場合に「登下校時の安全確保」を可能とする割合が57.6%と高く、近所の大人とあいさつ程度はする場合にはそれは23.4%と低くなっていた。また、問15のボランティア活動の状況把握についても問7の近所の大人との関係別にみると(表41)、近所の大人とよく話をする場合には「見守りボランティア」「高齢者とのふれあい活動への協力」の割合が高くなっている。

表40 近所の大人の関係からみた小中学校への支援可能なこと (上段：人 下段：%)

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全 体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
よく話をする	172 100	9 5.2	20 11.6	84 48.8	15 8.7	99 57.6	25 14.5	49 28.5	1 0.6	10 5.8	2 1.2
ときどき話をする	254 100	29 11.4	27 10.6	96 37.8	18 7.1	94 37	28 11	42 16.5	5 2	49 19.3	7 2.8
地域の行事で会った時には話をする	40 100	3 7.5	2 5	19 47.5	6 15	19 47.5	6 15	12 30	1 2.5	5 12.5	1 2.5
あいさつ程度はする	111 100	17 15.3	10 9	44 39.6	11 9.9	26 23.4	13 11.7	15 13.5	1 0.9	25 22.5	2 1.8
近所の人だとわかる	14 100	1 7.1	1 7.1	8 57.1	2 14.3	5 35.7	—	2 14.3	—	2 14.3	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
近所の人はわからない	3 100	—	—	—	—	1 33.3	—	—	—	2 66.7	—
近所に人はいない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表41 近所の大人の関係からみたボランティア活動の認知状況 (上段：人 下段：%)

	調査数	読み聞かせボランティア	図書ボランティア	下校時の見守りボランティア	福祉体験活動への協力	業での講師	小学校生活科の授	高齢者とのふれあい活動への協力	活動の場の提供	中学校の職場体験	その他	知っているものはない	無回答
全 体	597 100	212 35.5	141 23.6	481 80.6	107 17.9	44 7.4	152 25.5	237 39.7	5 0.8	67 11.2	8 1.3		
よく話をする	172 100	59 34.3	35 20.3	155 90.1	50 29.1	14 8.1	65 37.8	70 40.7	2 1.2	6 3.5	2 1.2		
ときどき話をする	254 100	101 39.8	68 26.8	203 79.9	35 13.8	19 7.5	54 21.3	108 42.5	3 1.2	29 11.4	4 1.6		
地域の行事で会った時には話をする	40 100	17 42.5	10 25	32 80	7 17.5	1 2.5	12 30	14 35	—	6 15	—		
あいさつ程度はする	111 100	31 27.9	25 22.5	79 71.2	14 12.6	10 9	18 16.2	40 36	—	21 18.9	1 0.9		
近所の人だとわかる	14 100	3 21.4	2 14.3	11 78.6	1 7.1	—	2 14.3	4 28.6	—	3 21.4	—		
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
近所の人はわからない	3 100	—	—	—	—	—	1 33.3	1 33.3	—	1 33.3	—		
近所に人はいない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

学校支援地域本部事業をめぐる現状と課題(2)

さらに問9の地域行事への参加頻度別に、問14の小中学校への支援可能なことや(表42)、問15のボランティア活動の状況把握について(表43)みると、地域行事によく参加している場合には「登下校時の安全確保」の割合が53.2%で高い傾向にある。一方で、地域行事にほとんど参加しない場合には、問14で「支援できることはない」とする割合が42.1%、また、問15でボランティア活動に「知っているものはない」の割合が26.3%であった。地域行事にほとんど参加しない場合には、問14のそれぞれの支援可能な内容や問15の実際に行われているボランティア活動のそれぞれに対する割合も低く、学校支援への関心があまり高くない傾向がみられた。

表42 地域の行事への参加頻度からみた小中学校への支援可能なこと (上段：人 下段：%)

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
よく参加している	231 100	17 7.4	28 12.1	104 45	24 10.4	123 53.2	36 15.6	67 29	1 0.4	17 7.4	4 1.7
ときどき参加している	307 100	38 12.4	30 9.8	133 43.3	24 7.8	108 35.2	31 10.1	53 17.3	5 1.6	53 17.3	6 2
ほとんど参加していない	57 100	4 7	2 3.5	14 24.6	4 7	14 24.6	6 10.5	1 1.8	2 3.5	24 42.1	1 1.8

表43 地域の行事への参加頻度からみたボランティア活動の認知状況 (上段：人 下段：%)

	調査数	読み聞かせボランティア	図書ボランティア	下校時の見守りボランティア	福祉体験活動への協力	福祉体験活動への協力	業での講師	小学校生活科の授	い活動への協力	高齢者とのふれあ	活動の場の提供	中学校の職場体験	その他	ない	知っているものは	無回答
全体	597 100	212 35.5	141 23.6	481 80.6	107 17.9	44 7.4	152 25.5	237 39.7	5 0.8	67 11.2	8 1.3					
よく参加している	231 100	89 38.5	59 25.5	205 88.7	54 23.4	20 8.7	74 32	88 38.1	—	17 7.4	2 0.9					
ときどき参加している	307 100	113 36.8	75 24.4	241 78.5	50 16.3	23 7.5	71 23.1	130 42.3	5 1.6	35 11.4	4 1.3					
ほとんど参加していない	57 100	10 17.5	7 12.3	35 61.4	3 5.3	1 1.8	7 12.3	19 33.3	—	15 26.3	—					

なお、問8の地域の役の引き受けの有無別では、問14・問15の回答傾向に差は生じなかった。

これらのことから、地域への関心度と学校支援の関連を考察すると、地域行事への参加頻度と学校支援への意欲には関連があると考えられる。地域の中の個々のつながりだけで

なく、地域全体としての行動や活動に関心を持つ場合には、地域の拠点ともなる学校への関心が高まり、支援しようとする意欲も持つようになるのかもしれない。まずは、住民に地域活動や地域全体のつながりに関心を持ってもらい、その上で学校への支援をお願いしていく方法も考えられる。そのような意味では、すでに様々な試みもなされているが、例えば、地域の連帯が必要不可欠となる防災活動を足がかりに、地域と学校との関わりを見出すのもよい方法であろう。

③属性・学習の有無と学校支援への意識

この他に、回答者自身の有する属性や学習の有無によって、学校支援への意識にどのような特徴がみられるかを、まとめておくことにしよう。

まず、性別で問14の小中学校への支援可能なことをみると（表44及び表45）、男性の「支援できることがある」の割合は85.8%、女性のそれは78.3%で、男性のほうがやや高くなっている。ただし、支援可能な内容は男女でやや違いがみられ、男性の場合には「部活動の指導」、「登下校時の安全確保」、「学校行事の運営支援」、「生徒指導」とどちらかといえば校舎の外の支援、女性の場合には「学習支援活動①」、「学習支援活動②」、「校内の環境整備」とどちらかといえば校舎内での支援の割合が高い。

表44 性別からみた小中学校への支援可能なこと（上段：人 下段：%）

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全体	597	59	60	251	52	245	73	121	8	94	13
	100	9.9	10.1	42	8.7	41	12.2	20.3	1.3	15.7	2.2
男性	316	19	26	132	40	149	43	66	5	40	5
	100	6	8.2	41.8	12.7	47.2	13.6	20.9	1.6	12.7	1.6
女性	277	40	34	118	11	96	30	55	3	53	7
	100	14.4	12.3	42.6	4	34.7	10.8	19.9	1.1	19.1	2.5

表45 性別からみた小中学校への支援の可能性（上段：人 下段：%）

	調査数	支援できることがある	支援できない	無回答
全体	597	490	94	13
	100	82.1	15.7	2.2
男性	316	271	40	5
	100	85.8	12.7	1.6
女性	277	217	53	7
	100	78.3	19.1	2.5

学校支援地域本部事業をめぐる現状と課題(2)

次に、年代別に問14の小中学校への支援可能なことをみると（表46及び表47）、20・30歳代と40歳代は「学校行事の運営支援」、「学校支援活動②」、「学校支援活動①」など、学校の教育活動に直接関わる支援が他の年代より高くなっている。50歳代では「校内の環境整備」が55.4%と他の年代より高く、60歳代と70歳以上では「登下校時の安全確保」が半数以上で、もちろん他の年代より高い傾向にあった。

表46 年代別からみた小中学校への支援可能なこと（上段：人 下段：％）

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子ども安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
20歳代	13 100	3 23.1	1 7.7	2 15.4	2 15.4	1 7.7	1 7.7	1 7.7	1 7.7	6 46.2	— —
30歳代	80 100	16 20	10 12.5	28 35	7 8.8	24 30	17 21.3	19 23.8	1 1.3	13 16.3	1 1.3
40歳代	107 100	16 15	16 15	39 36.4	11 10.3	24 22.4	14 13.1	22 20.6	2 1.9	24 22.4	2 1.9
50歳代	112 100	9 8	10 8.9	62 55.4	7 6.3	42 37.5	10 8.9	12 10.7	2 1.8	18 16.1	2 1.8
60歳代	202 100	12 5.9	17 8.4	88 43.6	20 9.9	108 53.5	25 12.4	48 23.8	—	22 10.9	4 2
70歳以上	80 100	3 3.8	6 7.5	31 38.8	5 6.3	46 57.5	6 7.5	19 23.8	2 2.5	10 12.5	3 3.8

表47 年代別からみた小中学校への支援の可能性（上段：人 下段：％）

	調査数	支援できることがある	支援できないことはない	無回答
全体	597 100	490 82.1	94 15.7	13 2.2
20歳代	13 100	7 53.8	6 46.2	— —
30歳代	80 100	66 82.5	13 16.3	1 1.3
40歳代	107 100	81 75.7	24 22.4	2 1.9
50歳代	112 100	92 82.1	18 16.1	2 1.8
60歳代	202 100	176 87.1	22 10.9	4 2
70歳以上	80 100	67 83.8	10 12.5	3 3.8

また、生涯学習の有無別に問14の小中学校への支援可能なことをみると（表48及び表49）、生涯学習活動をしている場合には、小中学校への支援への意欲は高く、「登下校時の安全確保」を除く支援可能な内容においては、生涯学習をしている場合としていない場合での支援可能な割合の差がやや大きかった。特に育児や教育について学習している場合には、「学習支援活動①」や「学習支援活動②」の割合がそれぞれ4割近くにのぼる結果となった。

表48 生涯学習活動の内容からみた小中学校への支援可能なこと（上段：人 下段：％）

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全 体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
趣味的なもの	142 100	22 15.5	26 18.3	68 47.9	14 9.9	59 41.5	17 12	32 22.5	1 0.7	13 9.2	4 2.8
教養的なもの	84 100	16 19	25 29.8	39 46.4	12 14.3	32 38.1	11 13.1	21 25	— —	9 10.7	— —
健康・スポーツ	217 100	21 9.7	35 16.1	104 47.9	27 12.4	95 43.8	32 14.7	51 23.5	— —	20 9.2	4 1.8
家庭生活に役立つ技能	58 100	8 13.8	13 22.4	27 46.6	5 8.6	21 36.2	7 12.1	15 25.9	— —	7 12.1	3 5.2
育児・教育	46 100	14 30.4	20 43.5	18 39.1	10 21.7	16 34.8	6 13	15 32.6	— —	4 8.7	— —
職業上必要な知識・技能	73 100	12 16.4	16 21.9	36 49.3	15 20.5	25 34.2	16 21.9	16 21.9	1 1.4	9 12.3	1 1.4
パソコン・インターネットに関すること	121 100	17 14	16 13.2	55 45.5	18 14.9	51 42.1	17 14	26 21.5	1 0.8	13 10.7	1 0.8
ボランティア活動やそのために必要な知識・技能	77 100	13 16.9	20 26	42 54.5	13 16.9	42 54.5	17 22.1	29 37.7	1 1.3	2 2.6	— —
自然体験や生活体験などの体験活動	25 100	1 4	3 12	14 56	5 20	16 64	4 16	10 40	— —	2 8	— —
学校の正規課程での学習	5 100	1 20	3 60	3 60	2 40	2 40	1 20	2 40	— —	— —	— —
その他	7 100	1 14.3	1 14.3	1 14.3	— —	3 42.9	3 42.9	3 42.9	— —	1 14.3	— —
学習活動はしていない	248 100	16 6.5	11 4.4	96 38.7	13 5.2	103 41.5	25 10.1	42 16.9	6 2.4	56 22.6	4 1.6

表49 生涯学習活動の有無からみた小中学校へ支援可能なこと(上段：人 下段：%)

	調査数	学習支援活動①	学習支援活動②	校内の環境整備	部活動の指導	登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保	学校行事の運営支援	生徒指導	その他	支援できることはない	無回答
全 体	597 100	59 9.9	60 10.1	251 42	52 8.7	245 41	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2
活動している	343 100	43 12.5	49 14.3	155 45.2	39 11.4	140 40.8	47 13.7	78 22.7	2 0.6	37 10.8	6 1.7
活動していない	248 100	16 6.5	11 4.4	96 38.7	13 5.2	103 41.5	25 10.1	42 16.9	6 2.4	56 22.6	4 1.6

4. 地域住民の意識調査からみた学校支援地域本部事業の課題

ここまで、調査結果に基づいて詳細に地域住民の教育や地域に対する関心と学校支援への意識等を考察したが、それらを仮説に対する答えとしてまとめ、さらに学校支援地域本部事業に取り組む際の課題を検討してみよう。

第1の仮説の教育や地域への関心の度合いと学校支援への意識との関連については、地域住民が学校の様子をどの程度見聞きしているか、また地域住民が地域の行事にどの程度参加しているかが、学校支援と関連する可能性が高いことが明らかとなった。したがって、地域住民の教育や地域への関心が高い方が、学校支援も活発化すると予測される。ただし、この点については、個々の設問から教育や地域への関心の度合いを考察するだけでなく、教育への関心度および地域への関心度についての包括的な指標を作成して検討する必要性もあり、この点が研究上の今後の課題である。

第2の仮説の学校への期待や学校のイメージ、学校の現状把握の違いによる学校支援への意識の違いについては、学校の様子を見ていたり抵抗感が低かったりする場合の方が、学習支援活動や部活動の指導など学校の教育活動に直接関わる支援に積極的に取り組む傾向にあることが明らかとなった。同時にこの調査では、学校の様子を見ている人は、小中学校の教育に学力の向上を期待する割合も高い傾向にあることが明らかになった。これらの結果から、地域住民が、学校の現状を直接見た場合には、学校教育の役割やできうことの限界等を考え、その上で学校支援に取り組んでいるのではないかと推測できる。昨年度の教員調査においても、教員は地域住民にまずは学校の現状を理解してもらった上での学校支援の仕組み構築を望んでおり、学校の現状を、教員や保護者だけでなく、広く地域住民に知らせ、学校のあり方などを共に考えそのイメージを共有することが、学校支援の際に重要と考えられる。

第3の仮説の住民自身の属性や学習の有無による学校支援への関心の違いについては、性別や年代別で、学校支援への関心はかなり違いがあることが明らかとなった。女性の場合または20～40歳代の場合には、学習支援活動に関心が高い傾向にあった。性別による違

いは他でもみられ、男性の方が地域への関心は高い傾向にあった。女性の場合には教育や学校の話題に関心を持ち、学校の様子をよく見ているが、学校への抵抗感は男性よりやや高かった。すでに述べたように、地域への関心と教育への関心の両方が高い場合や、学校の様子をよく見えていたり学校への抵抗感が低かったりする場合に、学校支援への関心は高い傾向にあるが、属性からみた意識の傾向をみると、学校支援に関心を持つすべての条件を満たすような住民はなかなか存在しにくいと考えられる。小学生や中学生の子どもを持ち、近所の子どもたちとも親しく、教育熱心な30・40歳代の母親と、近所づきあいが盛んで地域活動に積極的に参加する60歳代の男性では、学校の現状を知る手がかりも違えば印象も違い、またどのように学校を支援したいかという考えはおのずと違ってくるであろう。したがって、実際にそれぞれの地域住民の方に学校支援をお願いする場合には、その方の立場や状況をよく理解することも重要と考えられる。また、すべての地域住民に同じような学校支援を求めるのではなく、例えば教育にとっても関心のある人には学習支援活動をお願いするというように、だれに何を支援してもらうかを明確に区別して、支援を働きかけることも大切であろう。

また、調査では、多くの住民が小中学校の教育に、集団活動での心がまえやマナーの習得、道徳心や規範意識の向上などの徳育的な面をかなり期待していることも明らかとなった。ただし、このような徳育は、学校教育のみでの取り組みでは限界もある。例えば、マナーのような日常生活の中の習慣的行動の習得は、その方法をはじめに学校で指導できるとしても、それを習慣化する部分は、家庭など学校外での行動の練習（繰り返し）によるところが大きい。仮に、徳育に学校中心で取り組むとしても、地域や家庭の強力な支援は必要不可欠であろう。あるいは、地域が中心となって徳育的な活動を立ち上げて、それに学校や家庭が協力するという方法を考えてもよいであろう。

5. おわりに

本稿では、F市T地区における住民の意識調査から、学校支援のあり方を検討し、これまで述べたようにいくつかの課題を指摘することができた。すなわち、今回の調査結果の分析および考察からは、学校支援活動に取り組むにあたって、まずは、地域住民に学校の現状をよく知ってもらうために、学校に関わる情報を広く知らせ、学校のあり方などを共に考えそのイメージを共有すること、地域住民の方に学校支援をお願いする場合には、すべての地域住民に同じような学校支援を求めるのではなく、それぞれの方の関心や立場、状況をよく把握し、だれに何を支援してもらうかを明確に区別して、支援を働きかけることが重要であることを明らかにできた。

調査結果の分析については、今後、すでに述べたが教育への関心度、地域への関心度についての包括的な指標を作成した上での分析及び考察を試みたいと考えている。また、調査では生涯学習活動の状況についても尋ねており、さらに詳しく生涯学習活動と学校支援に対する意識との関連も検討したい。また、最終的に昨年度の中学校教員の意識調査の結果と合わせ、学校支援地域本部事業の課題を明らかにすることが今後の研究課題である。

最後に、調査にご協力いただいた関係者の皆様には、心より感謝を申し上げる次第である。また、調査表作成の段階から、サーベイリサーチセンターの一杉様、薬科様には大変

お世話になり、厚くお礼申し上げます。

なお、本研究は静岡産業大学研究助成金交付規程に基づき平成22年度に助成を受けたものである。

注

- 1) 詳細は松永「学校支援地域本部事業をめぐる現状と課題(1)～中学校教員の意識調査から～」(本学部研究紀要第12号)を参照。また、学校支援地域本部事業の概要についても、同稿を参照されたい。
- 2) 標本数算出については、辻功著『教育調査法』誠文堂新光社、昭和45年、p296を参考にした。

資料1 調査票

地域による学校支援のあり方に関する住民意識調査

問1 あなたは、近所の子どもとどのような関係ですか。(〇は1つ)

- | | | |
|----------------|--------------|-------------|
| 1 よく話をする | 2 とくどき話をする | 3 あいさつ程度はする |
| 4 近所の子どもだとわかる | 5 その他 () | |
| 6 近所の子どもはわからない | 7 近所に子どもはいない | |

問2 あなたは、子どもや孫の成長が楽しみですか。(〇は1つ)

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 1 楽しみだ | 2 どちらともいえない | 3 楽しみではない |
| 4 子どもや孫はいない | | |

問3 次のうち、あなたが関心のあるものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 環境 | 2 まちづくり | 3 福祉 |
| 4 教育・学習 | 5 文化振興 | 6 産業振興 |
| 7 健康づくり | 8 防犯・防災 | 9 この中にはない |

問4 あなたは、日頃次のような生涯学習活動をしていますか。(〇はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道など) |
| 2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学、社会問題など) |
| 3 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など) |
| 4 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など) |
| 5 育児・教育(幼児教育、教育問題など) |
| 6 職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など) |
| 7 パソコン・インターネットに関すること |
| 8 ボランティア活動やそのために必要な知識・技能 |
| 9 自然体験や生活体験などの体験活動 |
| 10 学校(高等・専修・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習 |
| 11 その他 () |
| 12 学習活動はしていない |

問5 あなたは、現在、生涯学習活動の成果を発表したり活用したりしていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|--------|---------|-----------|
| 1 している | 2 していない | 3 学習していない |
|--------|---------|-----------|

問6 あなたは、今後、生涯学習活動の成果を活用したいと思いますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------|-----------|-----------|
| 1 活用したい | 2 活用したくない | 3 学習していない |
|---------|-----------|-----------|

問7 あなたは、近所の大人とどのような関係ですか。(〇は1つ)

- | | | |
|--------------------------|-------------|--|
| 1 よく話をする | 2 とくどき話をする | |
| 3 地域の行事(行事名)で会った時には話をする | 4 あいさつ程度はする | |
| 5 近所の人だとわかる | 6 その他 () | |
| 7 近所の人にはわからない | 8 近所に人はいない | |

問8 あなたは、何か地域の役を引き受けていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|--------------|--------------|
| 1 引き受けている | 2 引き受けたことがある | 3 引き受けたことはない |
|-----------|--------------|--------------|

問9 あなたは、地域の行事にどの程度参加していますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|--------------|---------------|
| 1 よく参加している | 2 ときどき参加している | 3 ほとんど参加していない |
|------------|--------------|---------------|

問10 あなたは、小中学校での教育に何を期待しますか。(〇はいくつでも)

- | | | |
|---------------|---------------|---------------------|
| 1 学力の向上 | 2 健康の維持や体力の向上 | 3 集団活動での心がまえやマナーの習得 |
| 4 道徳心や規範意識の向上 | 5 その他 () | 6 特に期待することはない |

問11 あなたは、ニュースや新聞などで取り上げられる教育や学校の話(例：新しい教科書の厚さ、いじめの問題)に関心を持つほうですか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 1 よく持っている | 2 少しは持っている | 3 関心はない |
|-----------|------------|---------|

問12 あなたは、最近(過去1年くらい)のT地区の小中学校の様子を見聞きしたことがありますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 見たことがある | 2 聞いたことはある | 3 見ても聞いてもない |
|-----------|------------|-------------|

問13 あなたは、小中学校に出入りするのに抵抗を感じますか。(〇は1つ)

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| 1 抵抗を感じる | 2 どちらともいえない | 3 抵抗を感じない |
|----------|-------------|-----------|

問14 あなたが小中学校の支援をしたら、どのような支援が可能ですか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1 学習支援活動①
(授業時間中に補助的に入る、ドリルの採点を行うなどの授業の補助、実験や実習の補助等) |
| 2 学習支援活動②
(総合的な学習の時間の講師、読書での読み聞かせ活動等、補助というよりもやや教諭と同等の立場で学習支援にあたる活動) |
| 3 校内の環境整備(図書書の整理、グラウンドの整備、芝生の手入れ、花壇や樹木の整備等) |
| 4 部活動の指導 |
| 5 登下校時を中心とした通学路での子どもの安全確保(安全指導等) |
| 6 学校行事の運営支援(会場設営等) |
| 7 生徒指導(あいさつ運動等の生活指導) |
| 8 その他 () |
| 9 支援できることはない |

問15 T地区の小中学校で実際に地域の皆様により行われている次のボランティア活動のうち、あなたがご存知の活動を教えてください。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 読み聞かせボランティア | 2 図書ボランティア(本の整理、掲示物作成等) |
| 3 下校時の見守りボランティア | 4 福祉体験活動への協力 |
| 5 小学校生活科の授業での講師 | 6 高齢者とのふれあい活動への協力 |
| 7 中学校の職場体験活動の場の提供 | 8 その他 () |
| 9 知っているものはない | |

問16 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○)

- | | |
|-----|-----|
| 1 男 | 2 女 |
|-----|-----|

問17 あなたの年齢(年代)を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳以上 |

問18 あなたの職業を教えてください。(○は主なものを1つ)

- | | | |
|-------|---------|----------|
| 1 会社員 | 2 会社役員 | 3 自営・自由業 |
| 4 公務員 | 5 農林水産業 | 6 家事専業 |
| 7 学生 | 8 無職 | 9 その他() |

問19 あなたは、T地区に住んでどのくらいになりますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------|-------------|--------------|
| 1 5年未満 | 2 5年以上10年未満 | 3 10年以上20年未満 |
| 4 20年以上 | | |

問20 あなたのお住まいの小学校区を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|---------|----------|---------|
| 1 T小学校区 | 2 T南小学校区 | 3 わからない |
|---------|----------|---------|

問21 あなたのお子さまについて教えてください。(○はいくつでも)

- | | | |
|----------|-------------------|-----------|
| 1 小学校入学前 | 2 小学生 | 3 中学生 |
| 4 高校生 | 5 大学・短大・専門学校・予備校生 | 6 社会人 |
| 7 その他() | | 8 子どもはいない |

問22 あなたが最後に行った(または在学中の)学校を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|----------|------|--------|
| 1 中学校 | 2 高校 | 3 専門学校 |
| 4 短大・高専 | 5 大学 | 6 大学院 |
| 7 その他() | | |

問23 地域の皆様が学校を支援することについて、ご意見・ご要望等がありましたら自由にご記入ください。

ご協力いただきありがとうございました。

学校支援地域本部事業をめぐる現状と課題(2)

資料2 単純集計結果 (上段：人 下段：%)

調査数	問1 近所の子どもの関係								調査数	問2 子どもや孫の成長の楽しみ				
	よく話を する	ときどき話を する	あいさつ程度は する	近所の子どもだとわか る	その他	近所の子どものはわから ない	近所に子どもはいない	無回答		楽しみだ	どちらともいえない	楽しみではない	子どもや孫はいない	無回答
597 100.0	45 7.5	135 22.6	221 37.0	72 12.1	6 1.0	91 15.2	24 4.0	3 0.5	597 100.0	519 86.9	24 4.0	2 0.3	49 8.2	3 0.5

調査数	問3 関心のあるもの									
	環境	まちづくり	福祉	教育・学習	文化振興	産業振興	健康づくり	防犯・防災	この中にはない	無回答
597 100.0	371 62.1	142 23.8	259 43.4	238 39.9	69 11.6	55 9.2	310 51.9	245 41.0	7 1.2	5 0.8

調査数	問4 生涯学習活動の有無													
	趣味的なもの	教養的なもの	健康・スポーツ	家庭生活に役立つ技能	育児・教育	職業上必要な知識・技	パソコン・インターネット	ボランティア活動やそ	技能のために必要な知識・	自然体験や生活体験な	どの体験活動	学校の正規課程での学	その他	学習活動はしていない
597 100.0	142 23.8	84 14.1	217 36.3	58 9.7	46 7.7	73 12.2	121 20.3	77 12.9	25 4.2	5 0.8	7 1.2	248 41.5	6 1.0	

調査数	問4 生涯学習の有無			調査数	問5 生涯学習成果の有無				調査数	問6 生涯学習の活用			
	活動している	活動していない	無回答		発表や活用している	発表や活用していない	学習していない	無回答		活用したい	活用したくない	学習していない	無回答
597 100.0	343 57.5	248 41.5	6 1.0	597 100.0	122 20.4	222 37.2	248 41.5	5 0.8	597 100.0	260 43.6	68 11.4	248 41.5	21 3.5

調査数	問 7 近所の大人との関係									調査数	問 8 地域の役引きの有無			
	よく話を する	ときどき話を する	地域のは 行事で会 った時	には話を する	あいさつ 程度はす る	近所の 人だとわ かる	その他	近所の 人はわか らない	近所に 人はいな い		無 回答	引き受 けてい る	引き受 けたこ とがあ る	引き受 けたこ とはな い
597 100.0	172 28.8	254 42.5	40 6.7	111 18.6	14 2.3	- -	3 0.5	- -	3 0.5	597 100.0	358 60.0	141 23.6	89 14.9	9 1.5

調査数	問 9 地域行事への参加頻度				調査数	問 10 小中学校での教育へ期待すること						
	よく参 加して いる	ときど き参 加して いる	ほとん ど参 加して いな い	無 回 答		学 力 の 向 上	健 康 の 維 持 や 体 力 の 向 上	集 団 活 動 で の 心 が ま え ま え	道 徳 心 や 規 範 意 識 の 向 上	そ の 他	特 に 期 待 す る こ と は な い	無 回 答
597 100.0	231 38.7	307 51.4	57 9.5	2 0.3	597 100.0	278 46.6	200 33.5	490 82.1	438 73.4	19 3.2	1 0.2	2 0.3

調査数	問 11 学校の教育や話題への関心				調査数	問 12 小中学校の地域の様子				調査数	問 13 小中学校への出入り抵抗感			
	よく持 っている	少しは 持っ ている	関心 はな い	無 回 答		見 たこ とが あ る	聞 いた こ と は あ る	見 ても 聞 いて も い な い	無 回 答		抵 抗 を 感 じ る	ど ち ら と も い え な い	抵 抗 を 感 じ な い	無 回 答
597 100.0	287 48.1	300 50.3	7 1.2	3 0.5	597 100.0	179 30.0	243 40.7	171 28.6	4 0.7	597 100.0	93 15.6	221 37.0	278 46.6	5 0.8

調査数	問 14 小中学校への支援可能なこと											調査数	問 14 小中学校への支援可能なこと		
	学 習 支 援 活 動 ①	学 習 支 援 活 動 ②	校 内 の 環 境 整 備	部 活 動 の 指 導	登 下 校 路 を 中 心 と し た 安 全 確 保	学 校 行 事 の 運 営 支 援	生 徒 指 導	そ の 他	支 援 で き る こ と は な い	無 回 答	支 援 で き る こ と は あ る		支 援 で き る こ と は な い	無 回 答	
597 100.0	59 9.9	60 10.1	251 42.0	52 8.7	245 41.0	73 12.2	121 20.3	8 1.3	94 15.7	13 2.2	597 100.0	490 82.1	94 15.7	13 2.2	

学校支援地域本部事業をめぐる現状と課題(2)

調査数	問15 ボランティア活動の認知状況										調査数	問15 地域ボランティアの認知状況		
	読み聞かせボランティア	図書ボランティア	下校時の見守りボランティア	福祉体験活動への協力	小学校生活科の授業での講師	高齢者とのふれあい活動への協力	中学校の職場体験活動の提供	その他	知っているものはない	無回答		知っているものがある	知っているものはない	無回答
597 100.0	212 35.5	141 23.6	481 80.6	107 17.9	44 7.4	152 25.5	237 39.7	5 0.8	67 11.2	8 1.3	597 100.0	522 87.4	67 11.2	8 1.3

調査数	問16 性別			調査数	問17 年代						
	男性	女性	無回答		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
597 100.0	316 52.9	277 46.4	4 0.7	597 100.0	13 2.2	80 13.4	107 17.9	112 18.8	202 33.8	80 13.4	3 0.5

調査数	問18 職業										調査数	問18 就業状況		
	会社員	会社役員	自営・自由業	公務員	農林水産業	家事専業	学生	無職	その他	無回答		有職	無職	無回答
597 100.0	143 24.0	18 3.0	46 7.7	23 3.9	8 1.3	128 21.4	1 0.2	170 28.5	54 9.0	6 1.0	597 100.0	292 48.9	299 50.1	6 1.0

調査数	問19 居住年数					調査数	問20 居住の小学校区			
	5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答		T小学校区	T南小学校区	わからない	無回答
597 100.0	58 9.7	46 7.7	116 19.4	373 62.5	4 0.7	597 100.0	322 53.9	259 43.4	10 1.7	6 1.0

調査数	問21 子どもについて								
	小学校入学前	小学生	中学生	高校生	大学・予備校生 ・短大・専門学校	社会人	その他	子どもはいない	無回答
597	57	101	55	58	43	344	6	59	12
100.0	9.5	16.9	9.2	9.7	7.2	57.6	1.0	9.9	2.0

調査数	問22 最終学歴（在学中含む）							
	中学校	高校	専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他	無回答
597	63	289	52	54	125	9	1	4
100.0	10.6	48.4	8.7	9.0	20.9	1.5	0.2	0.7